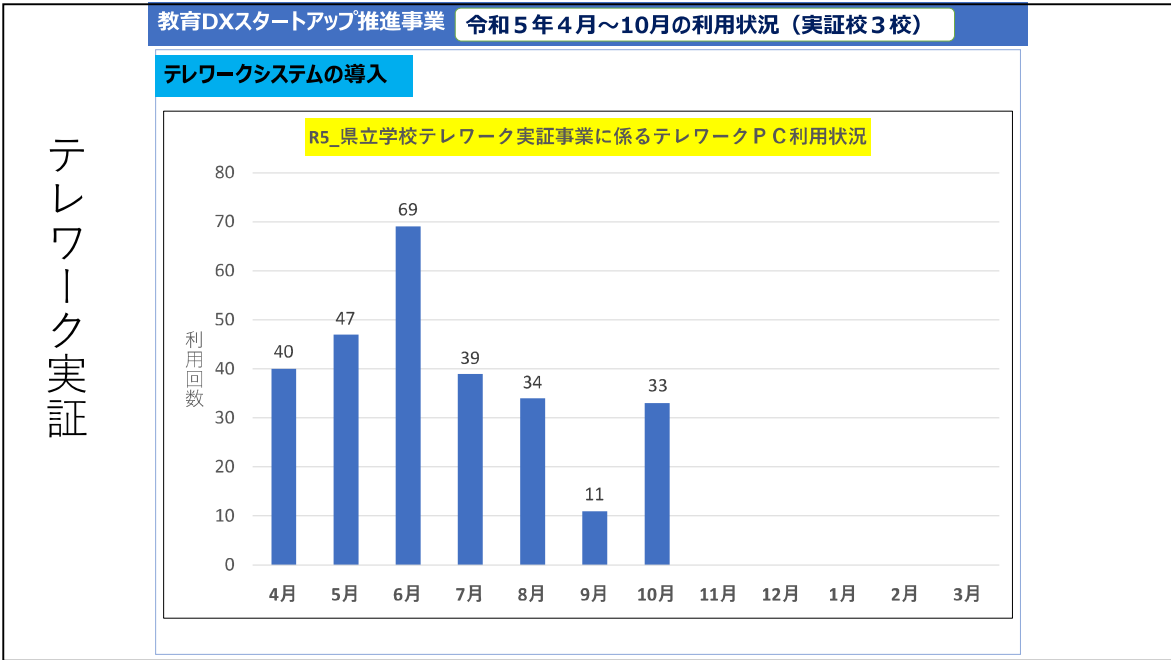


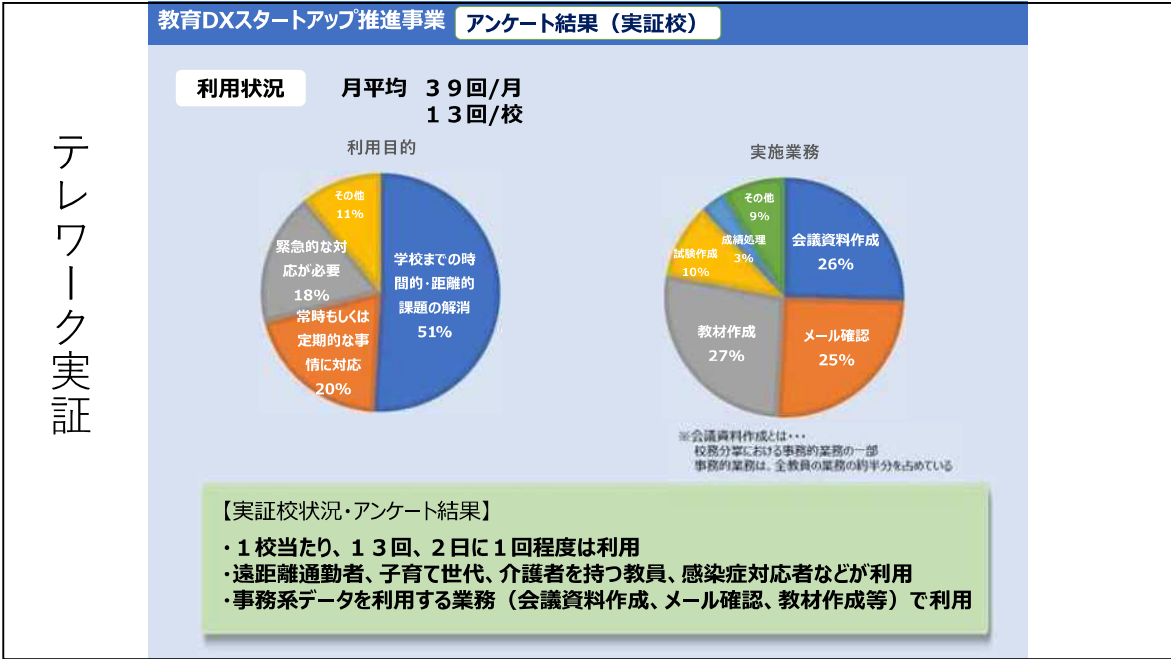
第32回 ICT 活用教育の推進に関する事業改善検討委員会 資料

| | |
|---|----|
| 【資料1】テレワーク実証 | 1 |
| 【資料2】デジタル採点活用システム実証..... | 2 |
| 【資料3】高性能 PC 貸出状況..... | 4 |
| 【資料4】端末更新 | 5 |
| 【資料5】市町の活用状況 | 6 |
| 【資料6】重点校支援..... | 8 |
| 【資料7】教育DXの将来像について～1人1台端末とクラウド環境の日常的な活用～ | 11 |

資料 1

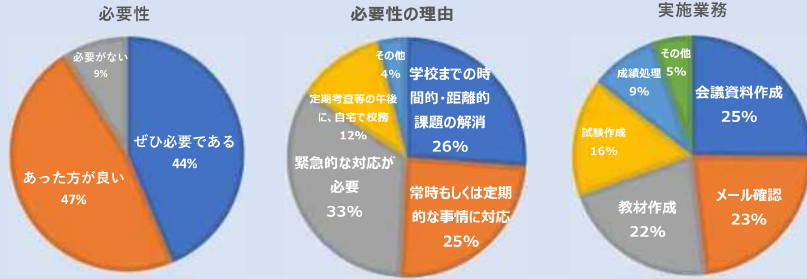


1



テレワーク実証

教育DXスタートアップ推進事業 アンケート結果（全学校）・今後の展開



【全校アンケート結果】

- ・9割以上の学校が必要
- ・必要性の理由、実施業務に関する回答では、実証校と同じ結果がでている

令和6年度に向けて展開を検討する

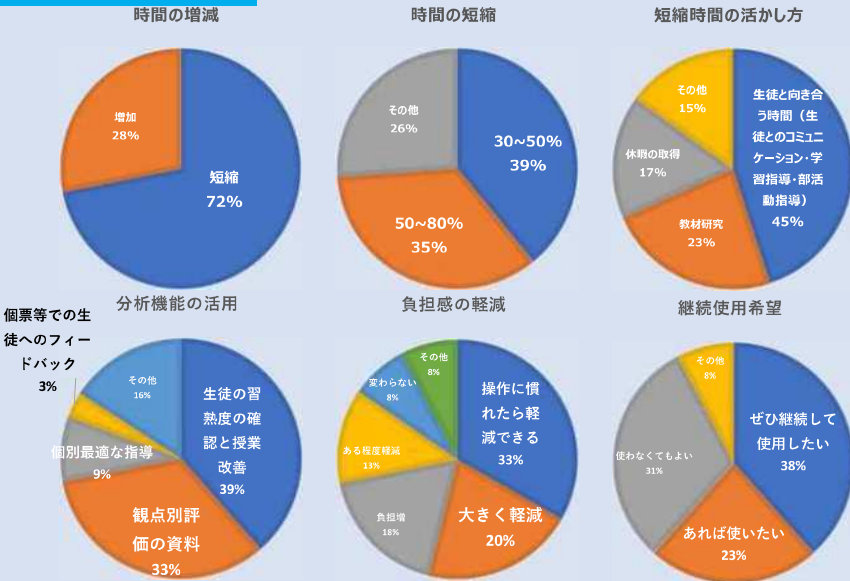
3

資料2

デジタル採点システム

教育DXスタートアップ推進事業 アンケート結果（実証校3校）

デジタル採点支援システム



4

教育DXスタートアップ推進事業 実際の声（実証校）

- ・大幅な時間短縮、労力削減になった。
- ・記号問題の採点が速い。
- ・分析資料が早くでき、授業改善に活かせた。
- ・採点ミスが減る。

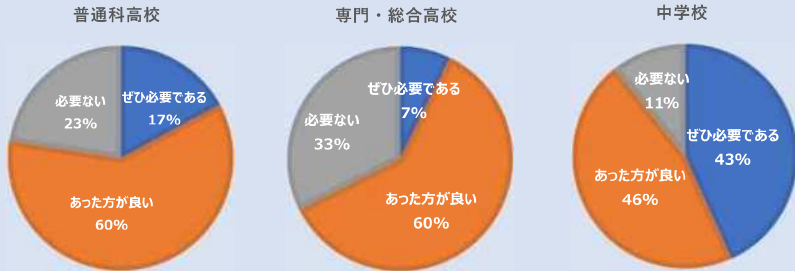
| 校種 | 教科 | デジタル採点 | |
|-----|---------|--------|-----|
| | | 使用前 | 使用后 |
| 教員A | 高校 地歴公民 | 180分 | 60分 |
| 教員B | 高校 理科 | 120分 | 45分 |
| 教員C | 中学 保健 | 120分 | 80分 |
| 教員D | 中学 外国語 | 240分 | 50分 |

- ・記号採点の時間削減
- ・転記・集計の時間削減
- ・分析時間の大幅な削減

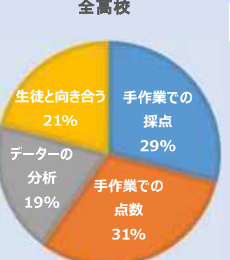
【効果】
 実証校全員にアンケートを実施
 ・活用している教員の70%以上が採点時間の削減と回答（30%から80%の採点時間削減）
 ・60%以上が継続希望をしている。

教育DXスタートアップ推進事業 アンケート結果（全学校）

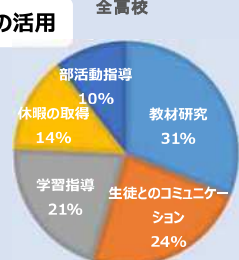
校種別必要性



必要性理由



短縮時間の活用



デジタル採点システム

【全校アンケート結果】

- ・全校種 7割から8割が導入を希望
- ・必要性の理由では、手作業での採点、点数集計、分析に時間がかかりすぎており、生徒と向き合う時間が不足していることがわかる
- ・短縮できた時間を教材研究、生徒とのコミュニケーション、学習指導など、生徒と向き合う時間に活用したいという希望があらわれている



令和6年度に向けて展開を検討する

7

資料3

高性能学習用端末整備事業

1. 目的

子ども達がデジタル技術を活用しながら多様な視点と幅広い視野で課題を捉え、創造力や課題解決力を養うことができるように、表現活動やデータサイエンス、高負荷プログラミング等に適した高性能学習用端末を整備する。

2. 整備台数

- ・ **111台**（県立学校4校に1台）を調達、県で管理し、学校及び生徒の要望に応じて、1回の申請につき最大3カ月貸与する。

3. 想定する活用方法

- ・ 動画、画像編集を用いた表現活動
- ・ データサイエンス、シミュレーションや機械制御など高負荷なプログラミング処理が必要な学習活動

4. 仕様

| 仕様 | 高性能PCスペック |
|-----------|--|
| タイプ | ノート型PC(FMVU4904AP) |
| ディスプレイ | 13.3型 |
| CPU | Core i7-1265U |
| ストレージ | SSD512GB |
| OS | Win11Pro |
| メモリ | 16GB |
| インターネット接続 | USB接続型標準端末(ドングル) |
| その他 | [ソフト・付属品] |
| | ・ Office2019 |
| | ・ 動画編集ソフト:アドビシステムズ |
| | MLP Creative Cloud for enterprise complete |
| | ・ 外付けDVDドライブ |
| | ・ マウス ・ キャリングケース |

主な申請理由

- ・ パソコン部での動画編集
- ・ 生徒広報部による学校PR動画制作
- ・ CMプレゼンコンテストの応募作品制作
- ・ 生徒会による体育祭・文化祭の動画編集
- ・ 生徒会による学校創立50周年記念ビデオ制作
- ・ 課題研究において、楽曲編集と動画編集に使用
- ・ 情報処理部によるプログラミング（アプリ・ゲーム開発）
- ・ 放送部の生徒によるコンテスト作品（動画、画像編集）制作
- ・ 科学部員による研究発表のための動画編集、ポスター制作、オンライン発表



貸出状況：全ての端末がほぼ毎月貸出（稼働率 **91%**）

PC活用による実績

- ・ 全国高校生ビジネスアイデアコンテスト（第33回全国産業教育フェア福井大会）

優秀賞（全国2位相当/応募総数89）

アイデア名「IJITSUで育てよう・食べよう」

伊万里実業高校



8

資料 4

校務用パソコンの更新について

令和5年度教育DX推進グループ

- ・ 県立学校教職員の校務用パソコンは平成29年1月から使用しており令和5年12月でリース期限満了となる
- ・ 11月下旬から学校への納品を開始するため、現在最終調整中

新校務用パソコンの機器仕様について

【コンセプト】「現行よりも高性能な端末」「将来的に持ち運びを意識した端末通信性能が高い端末」「将来的に授業利用と校務利用を両立できる端末」

| 機器仕様 | 現行パソコン | 新パソコン |
|-----------|-----------------------|---|
| 端末 | 東芝 dynabook B65 ノートPC | Microsoft SurfacePro9 2in1型 (ノート+タブレット) |
| OS | Windows 10 | Windows 11 |
| メモリ | 4GB | 8GB |
| ストレージ | HDD750GB | SSD256GB |
| 液晶ディスプレイ | 15.6型 (解像度1366×768) | 13型 (解像度2880×1920) マルチタッチタイプ |
| 外付けディスプレイ | なし | あり(21.5型) |

【運用想定】

- ・ 通常ログインは顔認証を導入 (指紋認証は仮想環境ログイン時に引き続き使用)
- ・ 校内持ち歩き可とする方針 (画面にのぞき見防止フィルム貼付)
- ・ 紛失対策として退勤時は引き出しに収納

○新たな校務用パソコン構成について

Copyright©2023 Saga Prefectural Board of Education. All Rights Reserved.

9

学習用パソコンの更新について

令和5年度教育DX推進グループ

- ・ 令和6年3月でリース期限を迎える端末の更新に向けて、現在契約を締結し要件定義等導入に向けた準備中

【対象端末】

- ・ 県立高校の学習用パソコン(生徒用)のうち、平成30年度導入端末(2018機)、致遠館中・武雄青陵中の生徒及び教職員が使用する学習用・指導者用パソコンを更新
- ・ 彩志学会中学校の生徒及び教職員が使用する学習用・指導者用パソコンを新たに調達

新学習用パソコン機器仕様

【コンセプト】「現行よりも高性能な端末」「通信性能が高い端末」「持ち歩きや自転車の振動・衝撃に強い端末」

| 機器仕様 | 現行パソコン (H30導入) | 文部科学省標準仕様 (R2設定) | 新学習用パソコン (R6導入) |
|----------|---------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------|
| 端末 | 富士通 ARROWS Tab Q508/SE | - | NEC PC-VEE11R5A63QD |
| CPU | ATOM X5-Z8550 | Celeron 同等以上2016年8月以降に製品化されたもの | Celeron N5100 |
| OS | Windows10 | Windows10 | Windows11 |
| メモリ | 4GB | 4GB | 8GB |
| ストレージ | 64GB | 64GB | 128GB |
| 重量 | 0.99kg | 1.5kg未満 | 1.3kg |
| 液晶ディスプレイ | 10.6型 (解像度1920×1080) マルチタッチタイプ 専用ペン付属 | 9~14インチ (可能であれば11~13インチ) タッチパネル対応 | 11.6型 (解像度1366×768) マルチタッチタイプ 専用ペン付属 |
| 通信(無線) | IEEE802.11a/b/g/n/ac | IEEE802.11a/b/g/n/ac | IEEE802.11a/b/g/n/ac/ax |
| 堅牢性 | 堅牢設計 | - | MIL-STD-810H準拠クリア |

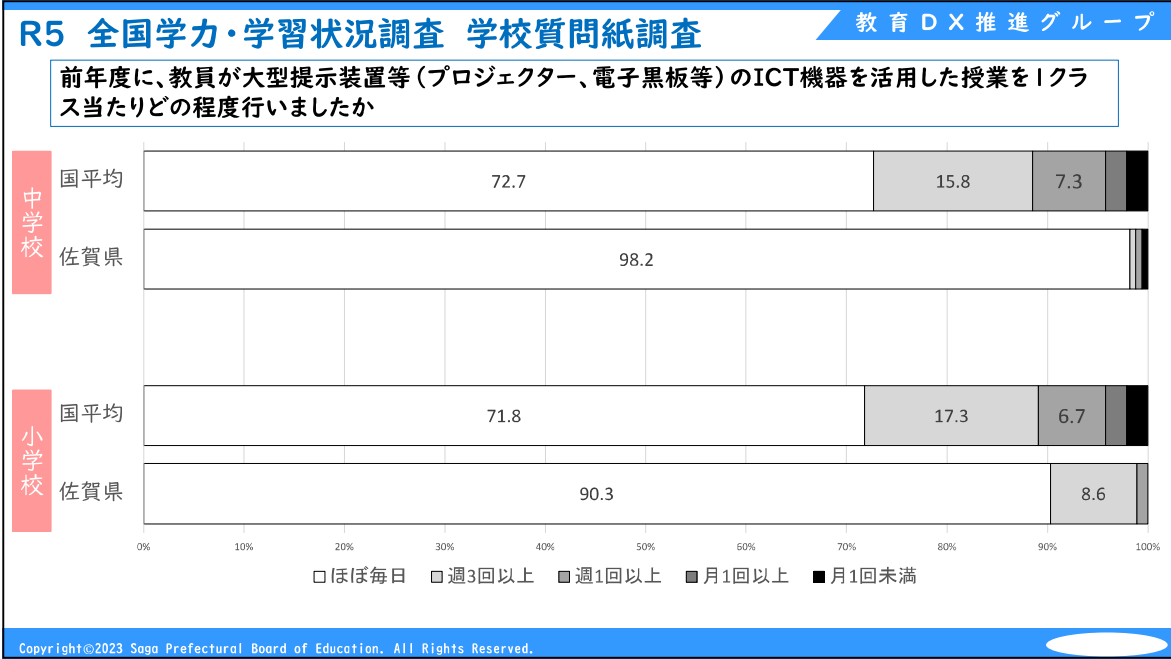
○新たな学習用パソコンの4つのスタイル

○納品予定機器

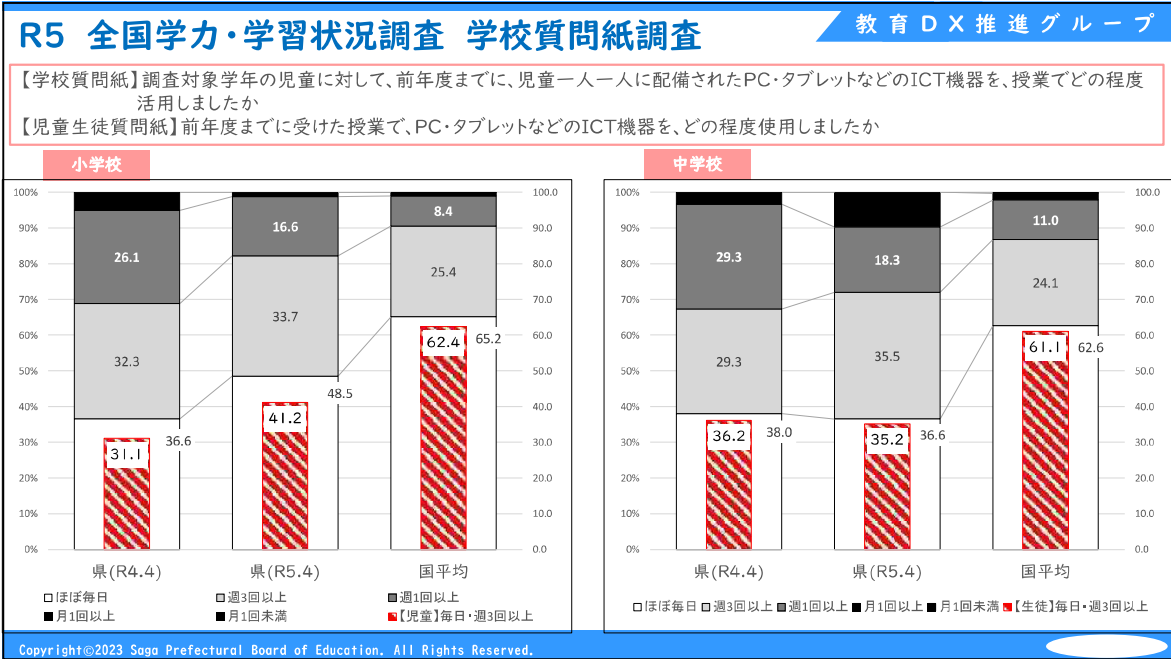
Copyright©2023 Saga Prefectural Board of Education. All Rights Reserved.

10

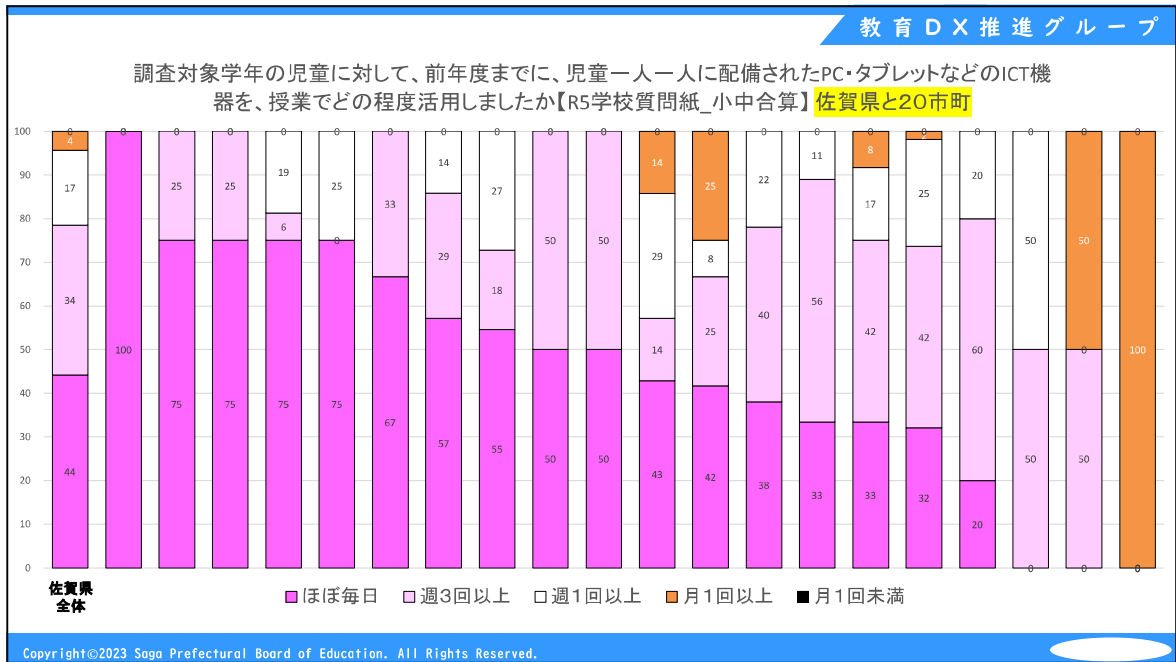
資料 5



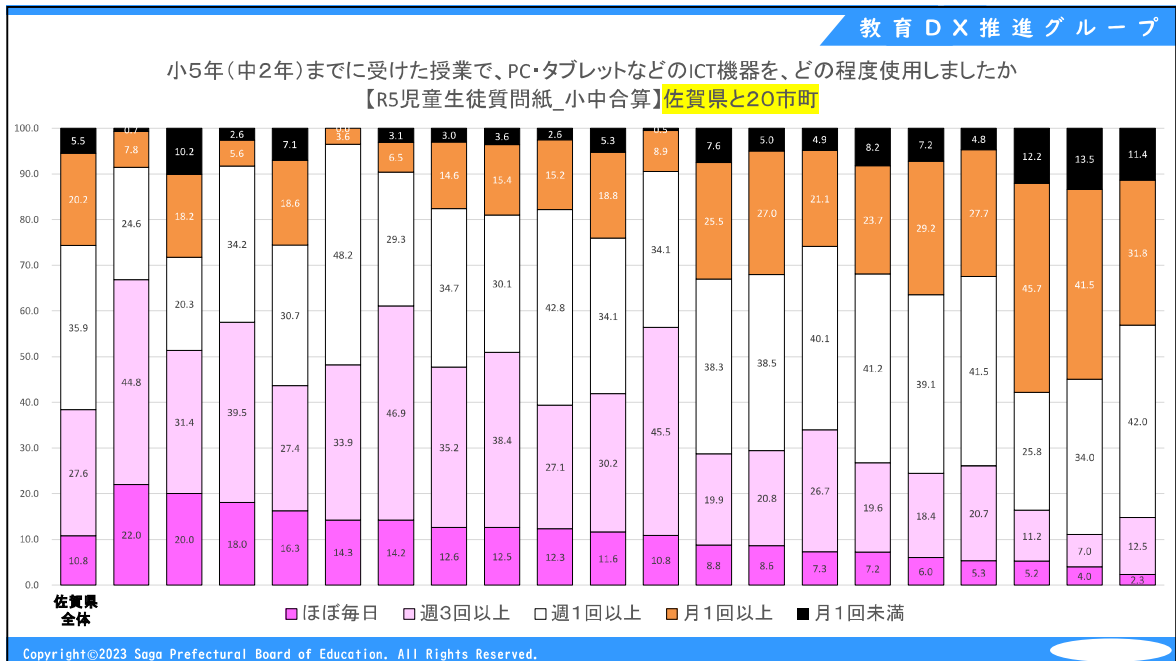
11



12



13



14

資料 6

重点校での研修（令和5年度）

教育DX推進グループ

【重点校の位置づけ】

- ・日常的な1人1台端末の活用が行われていない市町立小、中学校を対象とする。（県内1割程度）

【研修の流れ（60～90分を想定）】

- ①学校の現状を知る。
 - ・最初にアンケート機能（Forms等）で日ごろの活用についてのアンケートをとり、即時に結果を表示
- ②実践事例の紹介（アンケートの回答をいかしながら必要事項を進めていく）
- ③1人1台端末でできること（演習）
 - ・各重点校に必要なことを、実際に端末に触れながら演習
- ④グループ協議（協働書き込みの機能を使用して）
 - ・実践事例や演習から今後使えそうな、使ってみたいと思う実践を上げ整理していく。
- ⑤県の事業説明と事後アンケート
 - ・今後の研修に活かす。

重点校では、研修後も校内で研修体制を進めていけるように支援を行う。
重点校を支援することで県全体の活用の底上げを期待。

Copyright©2023 Saga Prefectural Board of Education. All Rights Reserved.

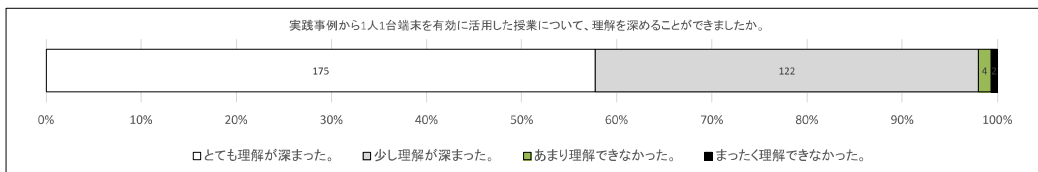
15

重点校での研修（令和5年度）

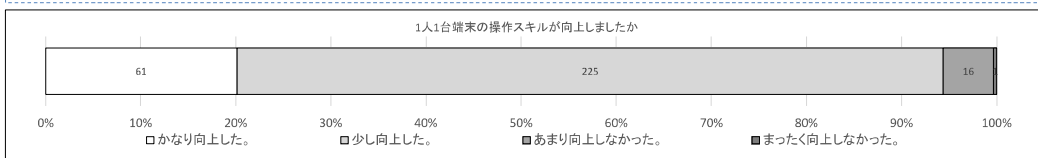
教育DX推進グループ

【重点校支援の効果】

「実践事例から、1人1台端末を有効に活用した授業について、理解を深めることができましたか。」の質問に対して「とても理解が深まった。」「少し理解が深まった」と答えた教員は、約98%。



「1人1台端末の活用スキルが向上しましたか。」の質問に対して「かなり向上した。」「少し向上した。」と答えた教員は、約95%。



重点校支援を受けた学校の先生には、効果が出ている。

Copyright©2023 Saga Prefectural Board of Education. All Rights Reserved.

16

1人1台端末に関する研修を受けた先生たちの声

・音声入力の方法やワークシートへの動画の貼り付け、QRコードを使った通信など、様々な実践とアイデアを伺うことができました。普段、めんどくさいなと感じることも、簡単にできていき、子どもたちのできることも増えていくと思いました。ありがとうございました。(50代)

・正直、手間やトラブルを言い訳にタブレットの利用から遠ざかっていました。しかし、使いこなすことができれば、さらに深い学びを行えることが知れたので今後は利用していきたいと思います。(50代)

・もっと早く、こういう研修を受けたかったです。(50代)

・使いこなせるようになるために、ICTの実技研修等を複数回、もしくは定期的に設けていただけるとありがたいなあと思います。(40代)

・体験や意見交換を行ったことで、活用方法のアイデアが膨らみました。少しずつ実践していきたいと思います。(30代)

活用できていない先生は使いたくないのではなく、どう活用するのかで迷っている。もっと**研修の機会が必要**である。



端末が導入されて2～3年の間、なぜ研修が進まなかったのか。

学校は非常に大変だ。優先順位は低い。

授業は端末なしでできる。

環境が整っていない。安全性が担保されていない。



正直、解決すべき課題は学校には山積みである



子どもや保護者はどう思っているのだろう。



1人1台端末というデジタル文具を
上手に使いながら学んでいける子どもたちを育てる

端末活用が、さまざまな学校課題の一つであるという認識

「先生が使いこなす」→「手軽に子どもが使う」意識の変換

先生たちが気軽に学べるプチ研修の機会提供

学校訪問

学校支援

プチ研修

端末を使う主体は子どもたちであることを、様々な機会をとらえて伝えてほしい

SAGA Eコネク

下記URLもしくは2次元コードからサイトにGO!

<https://www.saga-high-school.jp/e-connect/>



- 1 分かりやすい授業動画
- 2 豊富な実践事例
- 3 教育DX情報



SAGA Eコネクトへの投稿

先生たちの広場

| スレッド名 | 所属校種内覧 | 投稿日時 |
|---------|--------------------------|------------------|
| 先生たちの広場 | 多様な状況にある子どもの学びを保障 | 2024/11/07 16:54 |
| 先生たちの広場 | 子どもの良さや可能性を知り、多様な視点で取り組む | 2024/11/07 16:54 |
| 先生たちの広場 | 子どもに向き合う時間を確保 | 2024/11/07 16:54 |
| 先生たちの広場 | 個別最適な指導の実現 | 2024/11/07 16:54 |

ID :

PW :

(R5年11月1日～R6年1月31日まで有効)

LINEによる通知

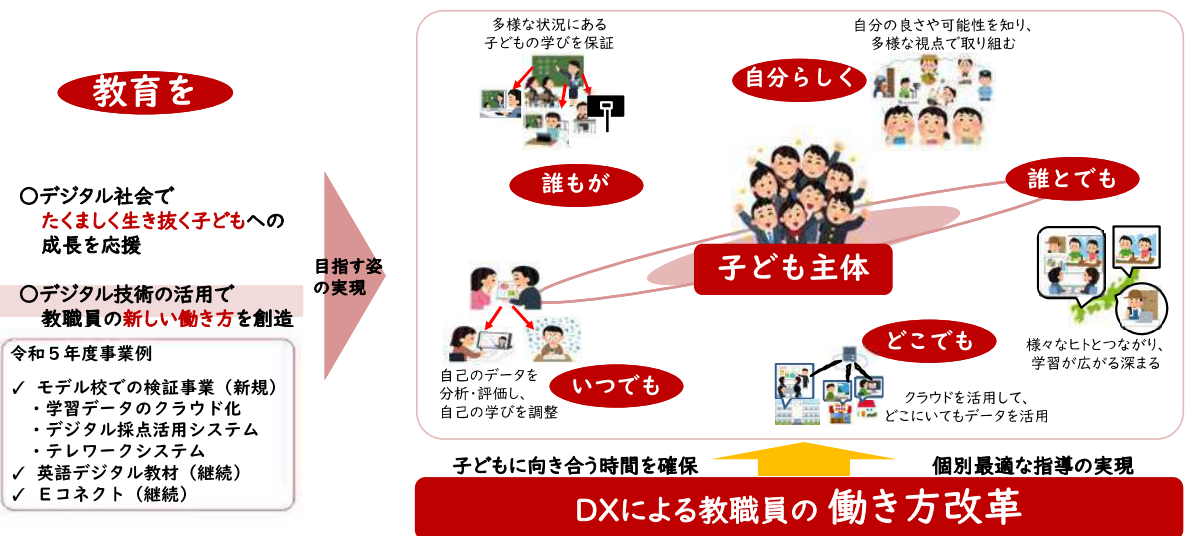


友達登録をすることで、実践事例や教育DX情報などの更新情報をお知らせします。

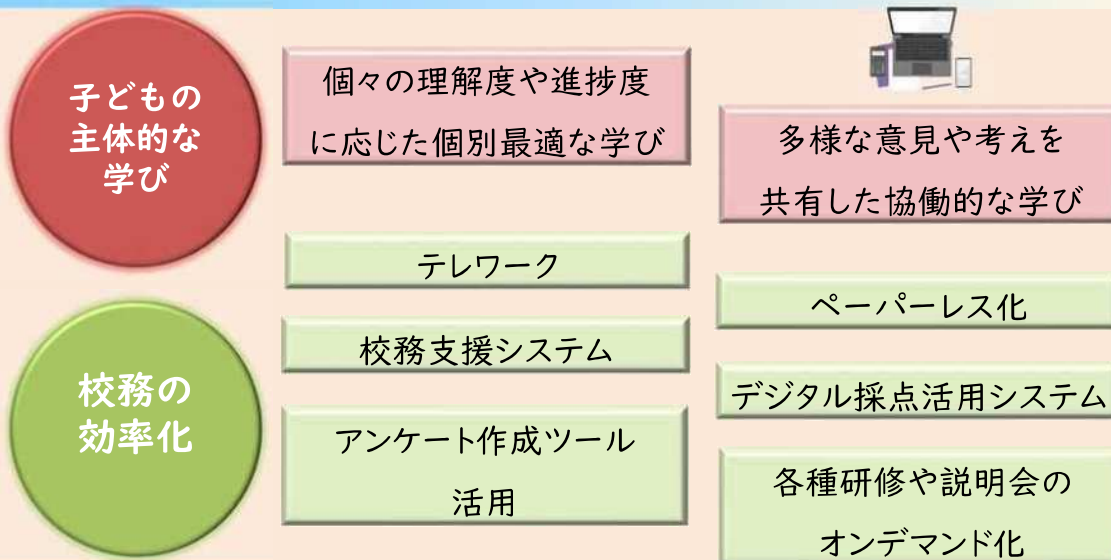
資料 7

I. 教育DXプロジェクト

目指す学びの姿 「誰もが いつでも どこでも 誰とでも 自分らしく 学ぶことができる 子ども主体の学び」



1人1台端末やクラウドを活用して現在取り組んでいる内容

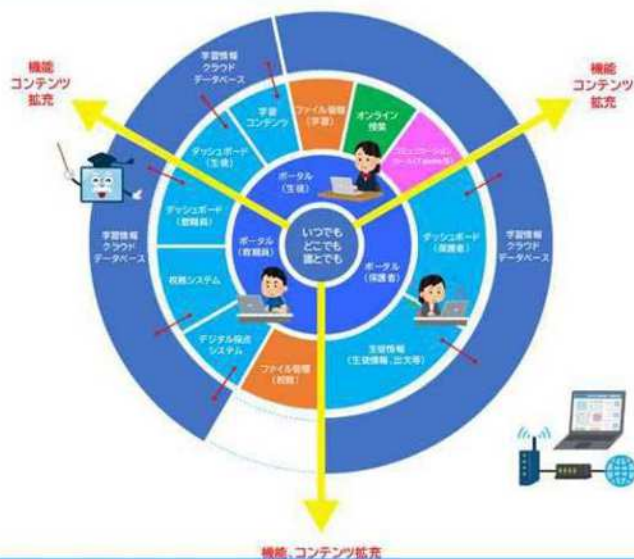


Copyright©2023 Saga Prefectural Board of Education. All Rights Reserved.

23

教育DXを実現する「次期教育情報システム」イメージ

教育DX推進グループ



Copyright©2023 Saga Prefectural Board of Education. All Rights Reserved.

24